

国際会議から 国際騒音制御工学会議 (INTER-NOISE2015)

2015年8月9日から12日にカリフォルニアで開催された国際騒音制御工学会議 (INTER-NOISE2015) は、その名称のとおり、「騒音・振動およびその制御に関する学術・技術の発展と普及を図る」ことを目的としたもので、第44回目の開催でした。世界各国から約1000件の研究発表がありました。著者は高齢者に配慮した駅の案内放送の提示レベルに関する研究成果を発表しました。研究発表後の質疑応答で、ポーランドのアダム・ミツケヴィチ大学の先生から駅空間で吸音処理することの良否に関する質問がありました。ドイツのミュンヘン工科大学の先生から



質疑応答の様子

辻村壮平
構造物技術研究部
建築研究室
副主任研究員

は実際の日本の首都圏の駅の暗騒音レベルと本研究の設定条件との差異について質問があり、活発な意見交換を行い、大変有意義な議論ができました。



INTER-NOISE2015の会場
出典：CrankyScorpion at English Wikipedia
CC BY-SA 3.0, via Wikimedia Commons

正式名称：International Congress and Exposition on Noise Control Engineering
開催国：アメリカ合衆国 (カリフォルニア)
期間：2015/08/09 - 12
主催：The Institute of Noise Control Engineering of the USA / The Korean Society for Noise and Vibration Engineering
開催頻度：1回/年
次回開催予定：2016年8月 ドイツ
ホームページURL：http://www.internoise2016.org/

国際会議から 国際応用人間工学会議 (AHFE 2015)

本国際会議は、複数の国際企業や団体の主催によって毎年開催される人間工学分野の国際会議です。2015年は、64カ国から大学、企業、政府関係者が1500人以上参加し、合計1605件の発表がありました。

発表の内容は、医療、航空、自動車、スポーツ、工業デザインなど多岐にわたります。今年は「鉄道」のセッションもあり、フランス、スウェーデン、オーストラリア、ドイツ、インドネシアから安全対策や、新システム導入が運転士の技術に与える影響などについて発表がありました。

筆者は、この会議にて情報提供者の知識・経験によって、発生するコミュニケーションエラーに差があることをポスター発表しました(図1)。コミュニケーションエラーをいかに防ぐかという問題は、医療や航空分野でも大きな課題であり、多くの研究者が私の発表に興味を持ってくださり、貴重な意見交換の場となりました。なかでも、ギニアのスポーツトレーナーの方から選手の指導の際に



中村 竜
人間科学研究部
安全心理研究室
副主任研究員

コミュニケーションエラーが多く発生し、苦労されているというお話を伺えたのは、このような多分野にわたる大規模な国際会議であったからこそと思います。

今回の会場は、ラスベガスを代表する名門ホテル、シーザースパレスでした(図2)。とてもきれいな会場で快適だったのですが、とにかくホテル内が広く、入口に入ってから会場に到着するまで10分近くかかりました。また、連日朝から40度を超す炎天下の中、会場と宿泊したホテル間を往復するのはかなり過酷でした。

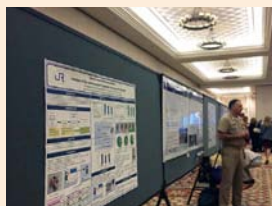


図1 発表したポスターと会場



図2 講演会場

Reprinted by courtesy of AHFE.

正式名称：6th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics

開催国：アメリカ合衆国(ラスベガス)

期間：2015/7/26-30

主催：43カ国の国際企業・団体

開催頻度：毎年

次回開催予定：2016/7/27-31 アメリカ(フロリダ)

ホームページURL：<http://www.ahfe2016.org/>